

横芝の碑

(その六十五)

二つの道標と、幻の街道

中台の十字路を松尾町蕪木方面に向いますと、一旦途絶えた人家が再び見え始めます。此々は桜前と呼ぶ地域で、昔は横芝から成田や八街佐倉方面に通ずる街道の追分になっていた所なのです。集

落のほぼ中央に変則十字路があります。その角に建っている道標がそれを示しています。道標は、高さ一米余、一辺が約五十厘程の石材で、正面には、北、中台、芝山、成田。南、蕪木。



①

左側面には、東姥山、横芝、西、山武、八街。奉参拝、富士、大山、三峰、古峰記念碑。右側面と背面には、大正八年六月、世話人五木田某他の方々の氏名等が刻まれています。道標案内を辿ると、北は中台、芝山を辿って成田へ、西は山武から八街方面へ、南は松尾蕪木へ、そして東は姥山を経て横芝方面に通じているというのです。附近の人々の話によりますと、ここは松尾町に境界を接した昔からの街道筋で、中でも東の横芝道は、八田の琴平様へも、又元の大総村役場や学校へも通じていますので、桜前の人達には特に大事な道路という訳です。それが、遠山

山や中台を廻って行くのでは、役場も学校も松尾町の方が遙かに便利である。横芝町に合併するとすれば、この道を改修して貰いたい。という条件を申出た人も多かったそうです。そうした桜前の人々の熱意を秘めているという、横芝道を辿って見ますと、主要街道であったことを物語るように、いま一つの道標に気が付くのです。桜前から入った横芝道は既に舗装されていますが、姥山貝塚の下を迂回し、やがて急坂を登りつめる

と峠のような十字路に出ます。その突当りの角に姥山の集落を見下すような形で建っているのが、第二の道標です。姥山の道標と同じように参詣記念碑を兼ねたもので、表面には、奉参拝、日光、善光寺、記念碑。東、長倉、八田琴平、横芝停車場。南、姥山、遠山、八田、松尾停車場。右側面には、北、木戸台、牛尾、多古方面。左側面には、西、中台、芝山、小池方面。背面には、大正八年七月、堀越某他建立者の氏名等が刻まれた、略桜前の道標と同じ大きさのもので、この案内を見ますと、桜前の皆さんのお話しが、成程と頷けるような気がして来ました。そして更に疑問を持ったのです。桜前から入ってすぐ左に曲る道と、次



②

倉、八田琴平、横芝停車場、という道路が一寸と見付かりません。処が、あったのです。木戸台方面の田圃へ下ろうとする入口の右手の雑木林と畑の間を通る耕作路のような道がそれだったので。この路は次第に山路に入り、再び広くなると又姥山の集落に入ってしまうが、山路が広くなる辺りに僅かに歩行者を容れる程の山路があります。背丈に余る笹藪等を押分けて進みますと、やがて長倉の氏神様の前に出ます。その先は寛政七年に建立された高台の庚申様から長倉の集落を通って琴平様の門前に入る道に続きませんが、これが成田、佐倉方面に通ずる、所謂幻の本街道だったと思われ

ます。二つの道標が建立年代の新しいのに係らず連繫して、昔の街道筋を碑に残している例は極めて珍らしく、新しいと言っても大正八年といえれば既に六十一年の歳月を経過していますので、この道標や寛政七年の庚申様等から、周辺道路の経緯変遷等をじっくりと調べて見たいと考えております。◎写真は、その道標で、①は桜前の富士山他登山参詣

倉、八田琴平、横芝停車場、という道路が一寸と見付かりません。処が、あったのです。木戸台方面の田圃へ下ろうとする入口の右手の雑木林と畑の間を通る耕作路のような道がそれだったので。この路は次第に山路に入り、再び広くなると又姥山の集落に入ってしまうが、山路が広くなる辺りに僅かに歩行者を容れる程の山路があります。背丈に余る笹藪等を押分けて進みますと、やがて長倉の氏神様の前に出ます。その先は寛政七年に建立された高台の庚申様から長倉の集落を通って琴平様の門前に入る道に続きませんが、これが成田、佐倉方面に通ずる、所謂幻の本街道だったと思われ

記念碑です。碑の前の路は八街佐倉に通じています。②は姥山の、日光善光寺参詣記念碑です。周辺は殆んど墓地群で淋しい場所ですから、若し深訪の場合は複数以上をお勧めします。本稿の取材に当り、杉森才二さん(本町)伊藤裕之さん(北清水)五木田隆さん(桜前)伊藤勝衛さん(姥山)其他大勢の方々の御協力を頂いたことを申添えます。

文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿

幻の街道を教える2つの道標碑

